

平成29年11月10日

平成29年度  
日本リハビリテーション専門学校  
第1回学校関係者評価委員会議事録

1 日時

平成29年11月6日（月）16:00～17:00

2 場所

日本リハビリテーション専門学校第二校舎3階

3 メンバー

委員：山下、近藤、綿貫、高田、古川、三沢

事務局：陶山、二瓶、工藤、近野、篠田、鈴木、深瀬、畠山

4 会議内容

以下議題に添って進行

【議題】学校関係者評価委員会

I. 平成29年度入学生アンケートについて

II. 平成28年度卒業生アンケートについて

III. 国家試験対策委員会より

① 昨年度の報告

② 問題点

③ 今年度の取組み

IV. 平成27年度職業実践専門課程自己評価（文部科学省モデル事業）

～主幹校：学校法人福田学園（大阪）～

V. 学会参加の概要等

事務局 工藤

学校関係評価委員会を開始、資料に添って説明。

<意見交換>

事務局工藤 入学生アンケートの資料をご覧になってご意見を頂けますでしょうか。

山下委員

特に例年と大きく変わったアンケート結果ではないと思われます。日リハとして継続できることをしっかりとできているという事が現れていると思います。自由記載欄においても丁寧な対応ができているという事なので、そこが学生募集においても定員を満たしていることに繋がっていると感じた。

- 綿貫委員 学校に関する案内や説明については現段階においてもしっかり出来ているのかなと思う。個人的に思ったことは、学校を卒業した後のリハビリとはどんなものなのかとかの情報がもう少しあっても良いのかなと思う。あとは私も奨学金などを借りて学費を支払っていたのですが、奨学金を借り入れた場合にどのような返済プランがあるのかなども少し手厚く説明してあげると保護者様や自分で学費を支払っている学生に対して安心できる内容になるのではないかな。
- 近藤委員 たまに日リハのホームページを拝見しているのですが、学校説明会の回数が圧倒的に増えた印象がある。いまは手厚くそういった情報を発信されているのかなと感じている。一方で教職員の方々のご負担も大変なんじゃないのかなと思っている。自分たちの時代には保護者様へ向けた説明会などはなかったので、今の学校運営においてはそういったことが大事なのだと身に染みて感じた。「本校に入学を決めた理由」に実習時間が長いところというのが、学生が具体的にどう捉えられているのかがわからないが、比較的学習意欲がある方が多いという観点からすると、そういった打ち出し方が良いのかなと思いました。
- 事務局工藤 学校説明会及び入試の回数増加については、定員確保のためには説明会及び入試を徐々に増やさざるを得ないという事情があって、結果的に5～6年前から年間を通して説明会は毎週日曜日（平日も週1回程度）開催。入試については、毎年6月から翌年の3月までには、原則として月2回程度実施している。それによって何とか定員確保ができています。これは、教員と事務が一体的に行わないといけないことで、それが日リハの良い部分だろうと思っているところではある。
- 事務局工藤 国家試験対策委員会からの資料をご覧になってご意見ご感想を頂けますでしょうか。
- 近藤委員 私の時代は自分たちで国家試験対策の勉強をやったように思う。あとは業者の模擬試験をやっていたと思う。
- 事務局篠田 当時は年末ぎりぎりまで実習をやって、年明けから国家試験対策をやっていたように思う。今の国家試験は非常に難しくなっている。
- 綿貫委員 国家試験のレベル自体が昔よりも難しくなっているようなので、一概に昔と今のやり方を比較はできないが、毎週模試をやるというのは私の時代の感覚で言うと少し負担じゃないかなと感じるところがある。特に夜間部の学生は昼間働いて勉強する時間は週末等しかない中で、それらを消化する

のは結構きついのかなと思う。ただ、それだけ今の国家試験が難しくなっているということであれば致し方ないのかなとも思う。

事務局工藤 以前は臨床実習重視という事で、あまり国家試験対策には力を入れていなかったが、それでも合格率は良かった。今はそれでは通用しなくなった。

山下委員 たまに国家試験の問題を見ると確実に昔よりも難しくなっていると感じる。それでも結果を出しているということは今の取組みの成果が大きいのではないかと思う。ただ、自分たちの時代の取組みが何もしてなかったという印象はなかった。

事務局工藤 国家試験の難易度が上がっているということもあるし、現在の学生の資質の問題と両面あるように感じている。だから教員は大変であろうと思うのが現状である。

事務局近野 下位レベルの学生をどうやって上げていくかということなので、学習スケジュールはあるが、それにこぼれていく学生をどうやって救うかが課題で、個別や小グループでの指導など色々な方法をやりつつ、学校に来ない学生や既卒生の対応をどうするかなどが課題としてある。

事務局工藤 OT 昼間部は国家試験合格率が全国平均を下回ったことがない。その良い指導の仕方などを学内で共有して国家試験対策委員会として動いているところである。また、OT 夜間部は退学率が低いところが良い所である。

事務局篠田 全国の学校の退学率に比較すると当校の退学率は全体的に低いという認識はしている。ただ、全国的な傾向として退学率が高いということがある。

事務局工藤 本日は誠にありがとうございました。